

INTERVIEW

あま市民病院 管理者
梅屋 崇先生



目指すは、医療人と行政と住民が 一体となった地域包括ケア

聞き手：山田隆司 地域医療研究所長

病院マネジメントに興味をもって

山田隆司(聞き手) 今日は愛知県のあま市民病院を訪問しました。この病院は平成31年4月から地域医療振興協会が指定管理者となり運営を開始し、協会の若きホープの梅屋 崇先生に管理者として赴任していただいています。8ヵ月経って現在の状況を伺いたいと思います。

梅屋先生は自治医科大学の静岡県の卒業生で、協会に入りいろいろな経験があってここに着任されたということですので、まずその辺りの話をお聞かせください。

梅屋 崇 よろしくお願ひします。

私は、平成8年に自治医科大学を卒業して静岡県に帰りました。自治医大の静岡県の卒業生の初期研修は静岡県立総合病院で行うことに

なっているので、そちらで2年間研修をして、3年目から焼津市立総合病院で3年間の後期研修をへき地赴任より先にすることになりました。初期の卒業生たちの義務年限のモデル研修コースが、初期研修は県立総合病院で2年、後期研修は地域中核病院で3年、その後4年間へき地へ行くというものだったのですね。それと同じかたちになる人が何割かいて、私はそのモデル通りに研修できました。後期研修は内科系を選択し、内科系のローテートを2年、最後の1年を呼吸器内科で研修しました。

その後、静岡、愛知、長野の県境にある佐久間病院に赴任しました。そこには静岡県の自治医大卒業生の半分くらいが行っていました。佐

久間町と水窪町が医療圏で、人口1万人を対象とした唯一の病院で、自治医大の卒業生たちと元々その地域に長くいらした前の院長先生とで常勤は6人の体制でした。

山田 先生以外に卒業生が4人いたということですか。

梅屋 そうです。ただ、病院と2つの出張診療所、それから巡回診療と訪問診療をしていたので、日中はいろいろなところに散らばってやっていました。そこでは外来、内視鏡検査、訪問診療、出張診療所のほかに、学校保健や電源開発の産業医など、ありとあらゆることをさせていただきました。

そこでとても印象的だったのは、町長が「ヘルストピア構想」というのを掲げていたのです。「ヘルス」と「ユートピア」を足した造語ですが、健康な町にしたいという構想で、とても病院を大事にしてくれました。そこで地域医療の奥深さや楽しさを教えていただいて、協会の理念でもある「医療人と行政と住民が一体になって」という、医療人と行政の近さを強く感じました。残念なことに、私が去った後に佐久間町は浜松市に合併されてしまいました。それによって医療人と行政は遠くなってしまったのではないか、という思いがあり、そのことは私があま市に来たら行政と近い医療ができるのではないかと期待したことと関係していると思います。

山田 佐久間病院には4年間いたのですね。

梅屋 そうです。4年間ではいろいろな役割がありました。先に後期研修をした者として、3年目の指導をしながら診療するという役割や内科の科長的な役割もあり、いろいろ考えながら診療させていただきました。

山田 確かに佐久間病院は1期生からずっと静岡県の卒業生が集まっていたですね。

梅屋 メッカですね。医師としての役割ややりがい、テーマを与えてくれるところで、本当にきら星

のような方々が大勢いました。

最近、へき地で働いていたときのエピソードを紹介することがあったのですが、その中の一つとして後の自分のキャリアに影響したのはSARS(重症急性呼吸器症候群)が流行したことだと話しています。SARSの流行に対して公立病院はマニュアルを作らなければならなくなったのですね。その際にやはりへき地の病院にできることとしては、マンパワーや準備できる機材などが限られているため、最終的には出張診療所の1つをつぶして事務と医者と看護師がこもるといった自虐的なマニュアルを作りました(笑)。もちろんSARSは全く佐久間町には来なかったのですが、ただ、そういうマニュアルを作成する上で、例えば行政が求めているレベルと、「そこまでできない」という地元の病院のレベルとがあって、なかなかすり合わないと感じました。それをどうしたらコンフリクトが減らせるかと考え、では医療マネジメントを勉強しようと思うようになりました。

すごくフレキシブルな病院だったことも大きいと思います。例えば私が「気管支鏡をやります」と言う、「先生はどうやるのですか?」と聞かれるんですね。そうするとそのマニュアルを書かなければならないわけです。過去のマニュアルは1冊もなかったのですね。そういうところがフレキシブルで、いろいろ勉強させていただいたこともあるし、そのルールを自分たちで決めさせていただいたこともあるので、それが私の中で管理を勉強しようと思うきっかけになりました。

山田 普通、医者というのは気管支鏡など内視鏡をやることに興味があって、マニュアルを作ることには大して興味がないと思うのです。先生はマニュアルを作れと言われて「作ります」と真正面から取り組んだ。先生がそういった仕事にまともに対応してそれをやったから、その仕事の価